

**Q.1** 小学生にはコグトレ棒を使ったり、プリントを提供したりしていますが幼児さんむけに簡単なものがあれば教えていただきたいです。

A.1 4歳くらいになったら、「もっとやさしいコグトレ」を使用してみてください。塗り絵や迷路などもあります。それ以前では、自由になぐり書きをさせたり、線なぞりをさせたりするほか、運動遊びをたくさんしてほしいです。

**Q.2** コグトレの大切さを学校の教員全体に広める工夫はありますか。

A.2 研修会を持って、実際に先生方にコグトレを体験してもらうと効果を実感してもらえます。学会HPにも参考資料がたくさんありますので、引用可能です。

**Q.3** アセスメントは心理検査等、どのように行っていますか。

A.3 学校では、WISC 検査を参考にすることが多いです。WISC 検査やコグトレアセスメントでは分かりにくい、「読み書き検査」を行うこともあります。この他、体の動きをタンDEM歩行で確認します。心理や福祉等、専門的なお立場では、さらに細かな検査を行うことになりますね。

**Q.4** 集中力の短いお子さんが多いと思いますがどれくらいの頻度か、取り組む時間など教えていただきたいです。

A.4 子どもがどの程度の頻度でトレーニングに参加できるかで変わってきます。トレーニングはできるだけ毎日が理想です。週に3回は行いたいです。そして、毎日であれば5~10分程度、COGET プリントなら2枚が良いと思います。回数が少ない場合、課題も時間も少し増やすことになります。

**Q.5** 普通学級でコグトレを実施するときに、こうしたらよかったということがあれば教えていただきたいです。

A.5 教育課程を考えた場合、どの時間に実施するかが課題です。できれば、朝のホームルームの時間が理想です。COGET プリントを1枚と聴覚的記憶課題を5問程度できたらいいですね。